

## 世界を変えた 14の密約 (後編)

### # work { 第7章 働き方が改革されない理由 }

- \* 終身雇用は 1950~80 年迄の例外だった。
- \* そしてマッキンゼーが現れた、1973 年 OPEC 発の石油危機が世界を不況に陥れた。
- \* 日本のカルト的工作観から学べ~マッキンゼーが参考にしたのは日本だった 1970 年代日本は奇跡的な経済成長の最中にあり世界は日本から熱心に教えを学ぼうとした
- \* 心と体を会社ブランドに捧げるようになる~グーグルの社員はグーグルが唯の会社ではないと信じ、この世で唯一無くてはならない企業だと本気で思っている。
- \* 移民を大量に受け入れた英国の予想違い~1960 年代と 2000 年代の起きた英国のサービス産業ブームは移民の労働力に支えられていた、しかし 2008 年以降不況に反転すると最も貧困な層が EU からの移民によって打撃を受け、今度は反移民運動のブレグジットの原動力となった。
- \* シャンゼリゼでのひらめきから生まれたウーバー~2008 年 1 月の凍える程寒い夜に 2 人の米国人がパリのシャンゼリゼ通りでタクシーを捨おうとしてボタ雪が降り、交通が渋滞、トランス・カラニックは閃いた「眼の前の車が全てタクシーになったなら？」
- \* 家賃に苦勞したことからエアアンドビーを創設~カラニックがウーバーを生み出そうとしていた時ブライアン・チェスキーとジョー・ゲビアの二人はロフト付きアパートの家賃支払いに苦勞していた、寝室は二つ、それぞれ別に寝ていたが「リビングルームを旅館にしよう」と広告を出すと、直ぐに 3 人が予約を入れた、8 年もたたない内にその価値は 2016 年 300 億弗になり、ウーバーの価値は 700 億弗、だがどちらも潜在的な価値は、それを大きく上回る。
- \* ウーバーの不都合な未来とロボットが納税する未来~ウーバーの運転手はどこで働いてもいいが現実にはウーバーに縛り付けられて、車に投資して金の返済があり身動きが取れない、いわゆる出来高払いの仕事は爆発的な勢いで伸び 2017 年米国労働力の 34%を占め、2020 年迄にそれが 5 割を超えそう。今回の革命は産業革命時代の 5 倍のスピードで広く速いペイパルの創業者テクノロジー界で財を成したイーロン・マスクは解決策として自動化が経済発展を実現してくれるならロボットに課税し、そこから生まれる収入を人に配ればよいと「ユニバーサル・ベーシック・インカム」だ。

### # upgrade { 第 8 章 終わりなき “買い替え” =アップグレード } ~1935 年世界の主要な電気メーカーがカルテルを結ぶ「電球の寿命を 6 ヶ月に」と、今やアップグレードの対象は車や iPhone のみならず人間にも及ぶ。シエルビー電気会社は 1901 年 30 ワットの電球を製造(今もサンフランシスコ郊外の消防署で光っている)計画化された陳腐化、今やアップグレードは生活の中の一部、11 ヶ月毎に携帯電話を買い替え、人口の 28%は 3 年毎にソファを買って替える、

恋人の乗り換えは平均 2 年 8 ヶ月

- \* 6 ヶ月以上長持ちする電球を作った会社を廃業に追い込め～1932 年のジュネーブ会議で電力会社が極秘に交わした議事録だ、ジェネラル・エレクトリック、英国の AE、仏のカンパーニュ・ドウ・ランプ、ブラジルの GE ソシエダット・アニノマ、中国のゼネラル・エジソン、メキシコのランプラス・エレクトリカ、そして日本の東京電力、これらの企業は生活のインフラを提供していた、1932 年以降、全てが壊れる事を前提に作られる事がここで決まった、大量生産の基本となった。
- \* 車を飽きのくるファッションにする～GM で「人工的な不満」を組み込んだ最初の車が 1956 年に発売されシボレー・ベルエアーだ、これはトヨタのデザイン部門に継承。
- \* 2007 年 iphone の誕生～1984 年マッキントッシュはコンピュータ業界全てを変えた、2001 年 ipod は音楽産業全てを変えた、2007 年に 3 つの製品 = ipod、携帯電話、インターネット通信デバイスが 1 つのデバイス「iphone」はアポロ 11 号より高い処理能力を持つ真の実力はスティーブ・ジョブズでさえも、それを分かっていたいなかった。
- # power { 第 9 章 権力を持つものは誰か }
  - ～2014 年ロンドンのホテルに於いて中国で最も裕福な大連万達グループの会長王健林(資産 320 億弗)その日、彼は 70 億弗の使い道で英国企業グループがこぞって売り込んだ、私が呼ばれる前には英国の首相とロンドン市長が出てきた、一般の人と同じ短い面会時間だった、企業は全てを決めている、政府そのものだ。
  - \* 1961 年地球上で最も権力を持ったアイゼンハワー大統領は退任講演で敢て厳しい警告を発した「警戒心と見識を持った市民だけが巨大な軍産複合マシンを平和的な手段と目的に強いることが出来るのです」と、国民に内側を見せ共謀を伝えた。
  - \* パウエルの覚書 1971 年～企業はこれまで対立を避けてきたが今こそ躊躇せず攻撃すべき時だ、パウエルはニクソン大統領の指名で最高裁判事となり商工会議所会頭だったユージン・シドノーはメモを受け取り過去の政策を根本的に覆し産業界の反撃の強力な原動力に秘密のロビー団体が結成された。
  - \* 官僚を排除しろ～プロのロビーストが何千人と雇われ、あの手・この手で政府と取引した、彼等は労働法を撤廃し税率を下げ「大きな政府」への不信を人々の心に植え付けた、1980 年代初め頃、成功を収め大きな飛躍を目の前にしていた～企業が政府になろうとしていた、但しその邪魔になるのが官僚だった。
  - \* ザ、ファームことマッキンレーの台頭～これを実現してくれるのは世界で最も強い影響力を持つコンサルティング会社のマッキンゼーだった、ホワイトハウスのスタッフの採用から運営まで再建の全ての中心となった、又、英国首相ブレアの近代化や思考改革に重要な役割を果たした、1997 年マッキンゼーはその改革を 4 文字で表した「人材競争」その背景に自分達を雇う事を訴える意味もあり、彼等は最高の人材がいなければ生き残れない、それには私達が必要だと。
  - \* CEO の報酬が 700～800 倍に・・・人材競争のインパクトは

直ちに経営者の報酬に反映された、最下層の従業員の給与の数十倍だった CEO の報酬が跳ね上がった。

- \* エンロンの創造的破壊～2001 年 10 月エンロンが米国産業市場最もドラスティックな企業破綻した、エンロンは人材競争を真剣に受け止め本気で実践していた、経験のない口達者を社内でドンドン昇進させて莫大な投資判断を任せていた、エンロンはマッキンゼーの弱点となった、マッキンゼーの社長も悪に手を染めインサイダー取引で有罪になった。
  - \* PFI(全てのインフラ事業を民間資金等活用事業)と公共部門が一つの部屋で出会う～英米の権力構造は人材競争により一変、権力の移行を象徴する文字が現れた「PFI」だ、公共部門の財布の紐がきつくなるにつれ、企業が介入し PFI で政府を救った、官僚は自らの仕事の能力に自信を失ったように、今は政治家が自信を無くした。古い公務員は数度の人員削減で一扫され、マッキンゼーと他のコンサルティングが継続的・新たな官僚として本物の役割を担った、直ぐにいなくなる政治家より長く政府に仕えることになる、しかし彼等には下心があった。
  - \* 企業内企業～マッキンゼーは二つの帽子をかぶっている。  
片方で政府に助言を行い、もう一方では民間企業にコンサルティングを与える。  
マッキンゼーと彼らがアドバイスする政府間に隙間は全くない、この二つは一心同体になってマッキンゼーの云う事は絶対なのだ。
- # **business** { 第 10 章 **企業が政府を支配する** }
- \* 1958 年 ISDS(国家と投資家との紛争解決手続き)が成立、政府を秘密裏に訴える事が可能に、グローバル企業による国境を越えた支配の始まりだ。
  - \* ISDS—小槌の下にある一つの世界～1964 年東京で開かれた世界銀行の年次総会の場で 21 ヶ国がこの動議に強く反対し、彼らは開発という言葉を搾取と受け止めた。然し無理やり可決された 2000 年以來この法廷で数百という企業が世界中の半数を超える政府を訴えて、勝ちを収めていた。
  - \* 政府は国境に閉じ込められ、企業は国境を越えて世界を支配する。  
ボーダフォンは自分達に税金を払わせようとしたインドを訴え勝った。  
米国巨大企業コングロマリットのカーギル/ADM は児童の肥満を減らす為にソフトドリンクへの砂糖税を導入したメキシコを訴えて勝った。メキシコは大胆にも水の価額に上限を設けようとして訴えられ(水へのアクセスは国連憲章でも決められた基本的人権)企業が勝った。エネルギーが大半のバッテンフォールは国民が大反対した石炭火力発電所を止めようとした独政府を訴え勝った。
  - \* トランプ大統領 VS ザッカーバーグ大統領 ～ 2017 年 2 月フェイスブックの創業者マーク・ザッカーバーグがフェイスブックで「僕達は全ての人が望むような世界を作っているだろうか？」と、問いかけた～今の時代に一番大切なことは・・・人々に力を与える為の社会的なインフラを築き、全ての人の役に立つような

グローバルなコミュニティを作る事だと、民主主義のお面をかぶって 21 世紀のグローバルイゼーションをひたすら突き進むシリコンバレー軍団トランプも包装紙が違っただけで中身は同じだ。(トランプは裏取引や権力闘争を堂々と表に出すことを望んだ)

ザッカーバーグはエリートに見られないように灰色のシャツとジーンズで自転車通勤、トランプは罵り言葉の様にエリートという言葉をつき出す。

\* 戦前のエリートは信頼されていた～現代のエリートは大衆嫌いなリベラル、トランプ軍団とザッカーバーグ軍団、二つのエリート軍団は軍団の顔は変わっても権力闘争を続け、どちらも反エリートの言葉を唱えるだろう、但し勝者同士の戦いだ。

\* プーチンが経営するロシアと“国家企業”の中国。

\* 進歩的 CEO VS、株主～誰が内部闘争を制するのか？スローマネーの提唱者か、短期リターンの追求者か？が今後の資本主義の論理的な方向性を決めるだろう、それによって企業が地球を救うか、それともおよそ 60 回の収穫を経て地球が無くなる前に最後のひと掬い迄利益を搾り取るかが決まる、時計の針は着実に進んでいる。CEO は「持続可能性」を口にするが、それは間もなく「生存可能性」と変わる。

四半期毎の利益を出す事を止めて持続可能性とスローマネーの船に今乗らなければ全員を乗せた船そのものが沈んでしまう。

\* 長期投資できる企業、できない企業～アマゾンやドローン配送やロボット店員のいる店舗に投資してきた、QR(四半期決算開示)賛成派と反対派は今、面と向き合って剣を振り下ろしている、2016 年選挙戦の遊説中にヒラリー・クリントンは QR の廃止は企業にとっても有権者にとってもいい事だと信じていたが負けて、トランプが勝った。

# news { 第 11 章 フェイクニュースが主役になるまで }

\* バイ菌との戦い～本当の戦いは汚染された世界で、病気、大気汚染、でっつけられた移民の幻想は消費者の手に余る問題だ、しかしバイ菌との戦いには勝てる。広告で家中の表面にサルモレラ菌や大腸菌、病原菌がうごめく様子が映し出されて 15 秒ごとに滅菌スプレーを振りかけたい気分にする、滅菌ソープは強迫性神経症患者のお気に入りの薬になった、しかし安心は高がついた、家庭内からバイ菌を追いつくそうとするにつれ子供の喘息や湿疹が増え現在の平均的な家の中には外の空気より 2～5 倍汚染されている。

\* ニュースはどう事実を殺したか～1986年米国テレビ業界は NBC・CBS・ABC の三大ネットワークに支配されていた、そこにウォール街の乗っ取り屋が舞い降りて、一気に放送局を買い上げた、買い手は 20～30 億ドルで割安の産業を二束三文で買った。米国人は三大ネットワークを見て育った、ゴールドマンサックスの調査で全てにカネがかかり過ぎていることを発見し、出演料が大きく削られ、24 時間ニュースで大げさな惨事ニュースに転換、大衆を興奮させエスカレート、真実は二の次となった、銃撃と強盗と暴行がドラマチックに。

\* サッチャーとマードックによる子羊ランチにて～サッチャー首相とマードックは P 4

権力図を切り分けた、革命の為にマスコミの支持が必要なサッチャーと、マードックはサンデータイムズを買収したがった、二人は取引し翌日、報道機関の独占に関するルールが突然変わった、3社を買収したお返しで、全ての家庭にサッチャーリズムの集中光線が放たれた。マードックの帝国は100社を超える放送局と175の新聞社、40の出版社と一つの巨大な映画制作会社フォックスを抱えていた、全てを合わせると地球上の全人口の四分の三にあたる、21世紀フォックスは米国で最も視聴率が高いケーブルニュース局となった、米国人の94%は主流メディアのニュースは偏向しているか、ただのでっち上げだと思っている。

#### # **roboto** { 第12章 **ロボットと人間の未来** } ~ 人間とロボットとの違いは？

~ どう転ぶにせよ AI 革命はカネになる、ロボットを使いこなす僅かなエリート、そしてそのロボットが従順な大勢の人間労働者を監視する未来。

\* コンピュータのワトソン VS クイズ王者のゆくえ ~ コンピュータのチェス対決は複雑ではない、ジェパディーの質問には規則性がなくチェスの世界チャンピオンとの対決と比べ何段階も上の挑戦だった、史上最強の王者ケン・ジェニングスとブラッド・ラター元優勝者の二人は2千万人の視聴者の前で IBM が開発したワトソンと戦う事になり、最後の問題迄に稼いだ賞金はワトソン7、7万弗で人間の3倍以上と圧倒的勝利だ。

\* ロボットはベッドメイキング出来ない

~ 2017年3月、東京の富国生命34人がワトソンによって仕事を失った、健康保険を自動化1、27億人の内誰が手術を受ける事になるのかを決める事になる、34人の解雇で年間1、4億円の節約になると計算。~ 日本の南部にある変なホテルにはロボットのスタッフだけ、ルームサービスはドローンが運ぶ、1泊9千円、社員はオーナーだけ、だがベッドメイキングはメイドにしか、今のところは出来ない。

\* 介護ロボットは作れるのか ~ 日本では介護施設でもロボットは広く使われている、更に病院、空港、ホテル、台所、建設現場まで、日本は政府の研究開発費予算の、ほぼ半分をロボットに使っている。米国と中国の4社は人工セックスロボットの発売を計画。

\* 中流層の仕事はロボットに取って変わられやすい ~ 2013年オックスフォード大学での研究論文は全ての仕事の半分が2030年迄に自動化される可能性がある、医師、弁護士、会計士、スーパー店員、タクシー運転手、介護士、ジャーナリスト。

2017年5月イリノイ工科大学が開発した AI アナゴリズムは最高裁判決の72%を正確に予測した(人間の判事は66%) 2016年イーロン・マスクはアイデアを出した「人が生きていけるだけのお金を全員に与える」一方ビルゲイツは「ロボットの仕事に税金をかける必要がある」と言った。

#### # **technology** { 第13章 **人類史上最大案件 = “知性” の取引** }

~ 2014年英国 AI 会社ディープマインドの若者3人がラリーページと交渉する、人工知能でも人間の知能でもない“知性”を扱う会社が 6、5億弗で買収された！

\* ロボットが独自に言語を作り始めた！

～2016年9月ディーブマインドを子会社に収めた AI 研究部門はグーグルニューラル機械翻訳(GNMT)に着手した、GNMTは一瞬で機械に全ての言語を翻訳させるプログラムだ、1ヶ月程で奇妙な事が起きていた、韓国語から日本語への翻訳例を与えていたのにマシンは勝手に韓国語翻訳を行っていた、その後マシンはもう一段進化して AI マシンはポルトガル語から英語と、英語からスペイン語への翻訳を教わった、するとマシンはポルトガル語からスペイン語への直接翻訳を始めた、しかしプログラマー達が本当に懸念したのはマシンが全く新しい独自の言語を作り始めた事だ、人間にはそれが解読できない、それは全く新しい暗号言語でマシンだけが解読可能だ。

- \* CIA が支援、全てを見張るスタートアップのパランティア～パランティアの防衛システムには最先端の生体認証電波、電子信号、インターネットを遮断する壁もある。データ貯蔵はブロックチェーン化されている数十名の独立した個人が持つデジタルパスコードがなければデータにアクセスできない、パスを持つ人のアイデンティティもブロックチェーンで守られている、彼等にはパランティア・ゴッドサムと呼ばれる秘密の武器がある。CIA、FBI、国家安全保障局、疾病予防管理センター、海兵隊、空軍、特殊部隊、陸軍士官学校、内国歳入庁等がクライアントだ。パランティアは米国政府の心臓部にいるが別部門のパランティア・メトロポリスはヘッチファンドや銀行や金融サービス企業にライバルの先を行く為の分析ツールを提供、ウォール街も支配している。パランティアは極めて秘密主義で誰の目にも止まらない所で動く特殊部隊だ。
- \* ビックファイブの独占を破れるか～ビッグファイブとパランティアが一つになると超強力な企業集団が生まれる～2016年8月欧州委員会の審判が下りアップルは110億ポンドと利息を支払わなければならなくなった。アマゾン は地元商店街の抹殺者とみられている。アップルは中国政府の要求をのみ、中国の人々に外との世界の繋がりをしてきたアプリを閉鎖した、その一方で米国政府の要請を断ってテロリスト容疑者のiphone へのアクセスを認めなかった。ビッグファイブは政府の権威に挑戦し政府は黙って受け入れた、誰もビッグファイブを飼いならせない事を知っている。

# now { 第14章 **21世紀のインフラストラクチャー** }～2017年私達はピーター・ティールのオフィスにいた、イーロン・マスクが取り組む高速衛星インターネットが全てを変えろという、21世紀のインフラが人々をエンパワーする。

- \* **インターネットの命運を決めるのはグーグルではなくなる、イーロン・マスクがその力を握る事になる、スペース X にかかなりの投資をしてきたピーター・ティールとそのパートナーのジャック・セルビーもだ。**スペース X が火星を植民地化し帰還可能ロケットが地球と火星の間を就航すると、彼等は火星か月でのインターネットのアクセスを支配するようになる。インターネットが宇宙から放射されれば革命を妨げる地上の物理的な障害や法的障害は消えてなくなる、これは21世紀の運命のイタズラだ。私達は皆、大道芸人になる必要がある、自分の才能と、こ狡さを使って人生を作り上げていかなければならない、希望の広がる野原だ。 ( 完 )